

第1回南区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 平成31年（2019年）2月15日（金） 午後6時30分～8時30分

2 開催場所 南区役所本館4階講堂

3 出席者

(1) 委員（15人中13人出席）

秋田委員、越智委員、門委員、加藤委員、神出委員、角田委員、高橋委員、田丸委員、日浦委員、平岡委員、松田委員、丸山委員、山口委員

(2) 南区役所

南区長、副区長、厚生部長、建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員

(3) 企画総務局

政策企画課総合計画担当課長、政策企画課職員

4 議題

(1) 座長・副座長の選出

(2) 広島市総合計画審議会の審議状況について

(3) 南区まちづくり懇談会について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 広島市総合計画審議会の審議状況について

議事資料2 第1回南区まちづくり懇談会資料

(2) 参考資料

参考資料1 広島市総合計画の改定と南区まちづくり懇談会について

参考資料2 広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について

8 議事内容等

(1) 座長・副座長の選出

座長には松田委員が、副座長には田丸委員が選出された。

(2) 広島市総合計画審議会の審議状況について

議事資料1及び参考資料2により、企画総務局政策企画課総合計画担当課長から審議状況

の説明を行った。

(3) 南区まちづくり懇談会について

議事資料2により、区政調整課長及び地域起こし推進課長から説明を行った。

9 発言の要旨

(2) 広島市総合計画審議会の審議状況について

門委員

これから高度な情報化時代に入ってくると思うが、これからの10年間の計画の中で反映していくのか。

政策企画課総合計画担当課長

高度な情報技術というのは発達しており、そういった技術を活用して施策に取り組んで行こうという方向性は考えている。ただ、情報通信基盤の整備は、事実上民間であり、行政としては、福祉であるとか観光などそれぞれの分野の施策を展開するときにその情報通信技術を活用していくことを考えており、分野としての柱は立てていないが、その情報通信技術を活用して施策を展開していくということを考えている。

門委員

自動車の自動運転がどんどん広まって、実験的に広島を自動運転がしやすい道路事情に変えていくような施策について、マツダや市立大学と連携をとりながら、一つのモデル都市を目指すような考えはないか。

政策企画課総合計画担当課長

実は総合計画審議会の委員の方から、交通面において、今後の技術に対応し見据えた施策も何かあったほうが良いのではないかという意見もあったが、まだ具体的に先ほどおっしゃったような実証実験があるとかいう動きまでには至っていない。そういった将来の技術革新に向けて検討していくというようなことは書き加えていこうと思っている。実証実験がしやすいような道路事情というところまでは考えていないが、公共交通の利用を促進するという観点で、利用しやすい道路形態にしていくという思いはある。

山口委員

広島は人類で初めて原子爆弾の惨禍にあったという悲惨な目にあった都市だが、「広島」という名前は、「日本の広島市」であると、すぐに世界の人々が分かるという面もあるので、国際会議の誘致と国際機関を誘致するというようなことを検討課題に加えていただき、時間がかかっても努力をしてみただけでないか。これは10年の計画策定なので、1年、2年、3年でできるものでもないと思うので、そういったものも入れていただけないか。

政策企画課総合計画担当課長

国際機関の誘致と言う御提案については、昨今、国際機関のほうも財政等の問題があり、広島市に機関を置くことに関し、担当部局の方が交渉をしているようだが、難しいという状況である。国際機関の誘致ができるか分からないが、世界にある関連機関と連携して平和に関係する問題の調査、研究であるとか、情報の受発信に取り組んでいこうとは思っている。

日浦委員

我々の一番困っているのは、町内会や自治会の加入である。やはり地域を活性化しようと思えば、地域の人達が集まって色々やっついていかないといけない。町内会に入ってくれない、あるいは地域の団体に入ってくれないため、結果として尻すぼみになる。私は体育協会の会長をやっているが、次の会長を誰がやってくれるのかという話になると中々後任がない。施策をやるにしても地域が活性化しないと前に進まない。我々が思っているのは、どうやって地域の活動の中に人を引っ張っていくかということである。人を育てていくということが中々できにくく、若い人が関心を持ってくれないという課題がある。そういうところに人が引っ張り出されるような策があれば教えていただきたい。

政策企画課総合計画担当課長

非常に難しい問題で、広島市としても非常に悩んでいるところである。実際、参加促進するために町内会に役立つ情報を提供したり、参加促進のためのチラシの見本を作って紹介したりということしか現状としてはない。加えて、町内会活動に参加する地域の住民、担い手を増やしていくという意味で、地域コミュニティや地域の住宅に住んでいただくための住替え促進のための支援、部分的な補助を出したりだとか、地域コミュニティの方が活動するための場所を整備するための費用を一部補助したりといったことをやっている。当面はそういったことを引き続き継続しながら、先ほどおっしゃった何かよい施策がないかを検討していくつもりではいる。

区長

今、日浦委員がおっしゃられたことは、広島市としても課題意識を持っている。この解決策について、今後どういうまちづくりをしていくかという中で、アイデアを出していかないといけないと思う。この南区のまちづくりの方向性の中で、アイデアを出して議論いただければと思っている。非常に切実な問題として日浦委員から提起があったが、我々も他のところからそういったお話は聞いているので、今後議論の中で、皆でしっかり意見を出していただければと思う。

神出委員

今の話の続きだが、人が基本ということで、私もどうやって地域で人を発掘していくかということはずっと悩んでた。実は、うちの大河学区では子ども会が去年なくなったが、1

年間経ってやっぱり必要だということになり、若い子育て世代の方が手を挙げてくれた。1年間なかった状態が、子どもや子育て支援にとってマイナスになるということを自分達を感じられたということだ。それで、来年度から、また学区の子ども会が復活するが、こうしたことを、次の若い人に伝えていかないといけないと感じている。これから話し合った内容を若い人や地域に持って帰らないといけない。

松田座長

貴重な事例を発表いただいた。座長としても、最初の議題でこのようにどんどん意見が出るということは、活発な懇談会と感じた。他に御質問はないか。

加藤委員

10年と言ったら、目まぐるしい変化があると思う。5か年計画くらいが良いのではないかな。

政策企画課総合計画担当課長

この総合計画は、漠然とした内容が多かったように感じられたのではないかなと思うが、基本的に大きな方向性を示すものである。事業の中には大規模なプロジェクトなど長期間にわたって実施すべき計画もあり、今回も10年単位で計画を進めることとしている。具体的な個別の施策については、さらに分野ごとに個別の計画が市の中にあり、部門計画と言っているが、こうした部門計画や毎年度の予算編成の中で、具体的な事業を示している。中、長期的な施策については、先ほど申し上げたとおり部門計画や毎年度の予算編成の中で、市民の皆様にお示しをさせていただくように考えている。

松田座長

今回は部門計画という各行政分野別の計画の活用重点をおいていると聞いている。意見はまちづくり懇談会からも言っていきたいと思う。調整の方は行政の方にお任せして様子を見ていきたい。

丸山委員

この10年計画という基本計画は第5次となっているが、この10年の節目に何々を行ってどういう成果があったとか、時代背景が変わって失敗したとか、そういう資料はないのか。反省点等を見て、次の10年を見ないといけないのではないかな。

政策企画課総合計画担当課長

本日は持ってないが、総合計画審議会の際に、第5次基本計画に基づいて行った事業の概要と今後の取組の方向性について取りまとめた資料があるので、また皆様に提供する。

越智委員

今年は大きな災害が起きた。何十年とない大災害に対応する対策というのは、この中にあまり出てない。近隣の都市との連携など新しい課題が色々なところでは言われているが、この中にあまり入ってないという印象がある。

政策企画課総合計画担当課長

参考資料 2 の「広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について」という資料の 26 ページが防災関係の施策になる。こちらの中で、右の対応策の方向性のところで、豪雨災害の被災地域においては、砂防ダムや河川、道路等が一体となった基盤整備をしていくこと、また、第 2 段落以降が、被災地だけではなくて、市内全域において、土石流とか高潮対策、地震対策といったことを記載している。あくまで大きな方向性であり、具体的な内容については、地域防災計画や部門計画の中で示していきたい。

越智委員

まずは、近隣の府中町や海田町との連携が、あまりうまくいっていないことが、今回の災害の中で明らかになり、その辺りの緊急課題的なものがあるのではないかと。近隣の府中町などともっと連携して、色々なことを考えていくことが求められているのではないかと思っている。

政策企画課総合計画担当課長

同様の趣旨の御意見を総合計画審議会の委員からも、救援、救護に関して、近隣の市町と連携したり、制度整備が必要だという御意見をもらっており、そういった方向で検討は進めている。

(3) 南区まちづくり懇談会について

松田座長

ただ今の説明に対し、何か御意見・御質問がないか。なければ、私の方からお願いだが、今日初めての会合であり、それぞれ皆さん、10 年後のことを考えて、御自身で将来の南区について常々これを考えていたなど、一言ずつキーワードを御発言いただきたい。

秋田委員

私が住んでいる稲荷町という町は、町の北半分が中区の幟町小学校区となり、町の南半分が南区の段原小学校区となるという町である。私自身は、子ども達は幟町小学校、幟町中学校に行ったので、幟町小学校、中学校での PTA 会長をしたり子ども会長をしたりしていた。子ども会については、幟町小学校は、どの町から来ようと、子ども達は全員子ども会会員である。幟町の連合町内会が子ども会に 40 万円の補助金を出して、それで全て運営している。幟町小学校に通う子どもで、子ども会会員でない子どもは一人もいない。そういうことを段原小学校や他の学校でもやってもらいたいと常々思っている。先ほどから

町内会、自治会とか色々出ているが、私の今現在の思いでは、町内会に将来はないと思っている。近い将来無くなっていくだろうと。それは後継者がいなくなることで、ここまで個人情報厳しくなったら、民生委員も活動ができず、子ども会や町内会、あるいは老人会も思ったような活動が出来ない。そういうことから、町内や地域で活性化をさせるためには、もっともっと皆が近づいて、本当に昔のように腹を割って話ができるコミュニティを作っていかなければいけないと思っている。色々な事業があるが、その全ての基本に地域の皆が楽しく笑顔で話せるコミュニティを作るとというのが、一番大切なことだと思っている。

越智委員

私はマツダスタジアムを含む大州地区と言うところにおり、今感じているのは、以前に比べてマンションがどんどん建ってきているということである。これは駅が近くに出来たということで、新しいマンションに入ってくる方達がいるが、古い昔の家がお年寄りばかりになってきている。町内の色々な交流にしても、従来と違った形になっていくのではないかとと思っている。線路を挟んで向こう側が東区で、あちらは活発に活動が広がってきている。大州界限は細長い町であり、猿候川と山陽本線のわずかな間に約 2,800 世帯くらいがひしめいているが、台風や大雨が来た時には「猿候川があふれるんじゃないか」とよく言われる。川という名前がついていても、入り江であり、駅の方まで潮が満ちてくると上に上がって、引いてくると底が見える。実際、府中大川があふれた時には大災害になるが、ほとんどの方が分かっていない。そういう意味で、もう少し地域の代表とか、あるいは東区とか、これから 10 年の間に色々な形で横の連携をとっていかなければいけない地域になってきたなと強く思う。もう一点、最近では 5 か国くらいインド系の方、中国系の方とか、あるいは、アメリカから帰ってきた英語しか分からない方などがいて、急に国際化しており、子どもさん達もどんどん入って来られ始めたということがあり、これから 10 年先というと、国際的な方を受け入れる町になっており、そこも 1 つの大きな課題だと思っている。

門委員

元宇品は今年でグランドプリンスホテル広島が出来て 25 年になる。それ以前はタクシーの運転手さんに「よう、こんな島に住んどってですね」とよく言われた。暗い状態だったが、25 年の間に町が明るくなった。商店もやめたところが多いが、飲食店とか家族経営の小さい店が出来て外部からたくさんの方が来るようになった。よく他の地域の方に言われるが、元宇品の御老人は、「明るく元気な人が多い」と言われ、ホテルに宿泊しているお客さんにも「本当にストレスなく良いところに住んでおられますね」と、言ってもらえる。年寄りにとっては、買い物するところがないから少し不便だが、最近は戸建ての家やマンションもほぼ完売し、人が少しずつ集まっているように感じている。やっぱり人が来ないと町が明るく発展していかないのではないかなと思う。小学校も少人数なので、十数人しか新入生が入ってこない。男女のバランスが非常に悪く、男子が 0 や女子が 0 の可能性もあるが、子ども会の組織がしっかりしているので、ようやく町らしくなったような気がし

ている。それは、一町内が一社会福祉協議会、一町内会が一体で非常にコンパクトであり、600世帯がお互いの顔が見える地域なので、町内会の加入率も非常に高く、ほとんどの人が入ってくれる。そういう面では助かっている。外相サミットの際は、広島には元宇品があると世界に知られ、海外の方にも来ていただけるような町にしたらどうかと私は個人的には思っている。基本的には、住んで明るい町にしたい。

加藤委員

私はだれもが南区に住みたいというようなまちづくりを希望している。確かに時間はかかると思うが、人間でないと知恵は出ないので、ぜひ知恵を出して、出しちぎっていけば、おのずと光明は見えるのではないかなと思う。

神出委員

基本台帳の人口が減るというところで、若い世代がどんどん減ると税金も減ってきて、経済も落ち込んでしまう。南区の人口が減っていくのを防ぐためには、南区に住んでもらうのが一番良いが、そこにはやはり、魅力がないといけない。私が思っているのは、子育て世代や高齢者が、安価で一日丸々遊べるような場所が南区に欲しい。「南区に行って、ちょっと遊んで来ようよ」という、若い世代や高齢者が増えていって、そして、そこで収入が上がるのではないかな。そうすると、我々世代も色々な調整金等で潤ってくるのではないかなと思う。今はポイント制なんかもあるが、我々がその世代になった時にはもうないと思う。福祉の関係も色々考える。人が南区に来る、来てもらうということが一番の方法ではないかなと思う。うちの地域は、マンションが少ない地域で、一戸建てで昔から住んでいる人がたくさんいる狭い町だが、今そこに若い世代の方達が帰ってきている。マンションがなくても一応子ども達は減らずに少しずつ増えている状況である。そこに何か魅力というか、安心な要素があるのではないかなと思っている。もっともっと魅力を活かしながら、何が魅力なのかと考え、それこそアイデアを出していけたら良いのではないかな。私は今、青少協に関わっているが、すごく若い方達と一生懸命話をしている。そうすると、遊ぶ場所がない、本当にちょっと安くて入場料だけ払って一日遊べる場所がないだろうかとか、高齢者の方と集う場所がないというような意見がどんどん出てきている。来年度も若い人達と話をする場を4回くらい、役員にならなくてもいいから、とにかくまちづくりについて話そうよ、というような形で今やっている。どういう結果になるか分からないが、南区に人を呼ぶということが一番良いのではないかなと思っている。

角田委員

私達が住んでいるところは、荒神町小学校区だが、大須賀の人たちは、ほとんど白島小学校や幟町小学校の方に行ったりで、荒神町小学校の子どもたちが0だった。今回大きなマンションが2棟出来るにあたって、子どもがずいぶん増えるだろうと予想されていたが、マンションが高額で若い世代の方達があまり入れない状況だった。もう1棟の踏切の近くのマンションには、何名か子どもたちが入ってきたので、その町内会には子ども会が今回

できた。それと、球場のすぐ側のファミリー的なマンションでも子どもたちが増えて、色々なお祭りや駅前の行事、イベントに子ども達も参加している。小さな小学校のメリットとして、子どものほとんど 100 パーセントが子ども会に入っている。人数が少ないので、幼児や 2、3 歳の子ども達も子ども会に入り、色々な行事に参加していただくようにしている。それと、留学生会館の子ども達も全員子ども会に入っており、インターナショナルで楽しいのではないかと思う。昔、子どもだった子、うちの息子なんかも大きくなってきて、「子ども会はこれじゃあいけん、昔はこんなによかった」というのを、何人かの友達と話をし、昔のように子ども会を盛り上げようという、みんなの機運が今高まっており、「こんなことしよう、こんなことしよう」と子ども会が今活発になりつつあることが大変うれしい。

高橋委員

私は、子どもの悲しい出来事というのをとにかくないようにしたい。そういうように取り組んでみたいと思う。なぜ、そういうようなことを言うかと言うと、私は十数年前から青崎地区では小学校の 1 年生が下校、登校する時は定点で見守りをしており、下校する時は引率して帰っている。4 方向か 5 方向になるが、だいたい 10 人くらいで行っている。もう十数年やっている関係で、1 年生の時に連れて帰ってもらったという子が大学に行っている。挨拶もよくしてくれるので、各家庭に我々は入り込みやすいという環境になっている。実際に親も挨拶をよくしてくれる。

日浦委員

私は今、南地区の保護司会の会長もしており、この中にも保護司の先生が 2 人、それから更生保護女性会の会長さんがおられますが、まず南区から犯罪がないような町にしたいと思う。子ども達に大人は簡単に声をかけられなくなった。変なおじさん、変なおばさん、となかなか声をかけにくくなっている。過去に色々クラブとか活動をやっていた子ども達は、会えば必ず挨拶をしてくれたりする。そういう子ども達には声がかかりやすい。「お、ちゃんとやっとなか」とか「早く帰れよ」とかいう話ができるが、それ以外の子にはなかなか声がかかりにくいところがある。南区でも最近保護観察が減り、だんだん犯罪を担当する件数は減っている。また、社会を明るくするための色々な子どもたちの意見を聴いて、作文にしてもらって、県レベルで表彰している。我々南区でも、それを表彰したりして、子どもたちがどうしたら世の中が明るくなるのかとか、人との関係がどうだろうか、としっかり考えてもらって、それを我々が少しでも助けてあげるような環境を作って行きたいと思っている。なかなか、子ども達と接触することがないが、ボランティアをやっておられる方や町内会とか青少協、あるいは子ども会育成協議会とかで指導者をされている方が声をかけておられるので、そんなに子ども達は悪くはならない。私は南区で色々な活動をしているが、その中でも南区が本当に明るい町になるような活動をできたらなと思っている。

平岡委員

私もなるべく近所のお子さんが通られたら声をかけるようにしており、昨日はバレンタインデーで、2年生のお子さんがチョコレートを作って来てくれた。小さなことしかできないが、声かけをしている。うちの地域も子ども会が一時なくなったが、また今復活して、お世話してくださる方がいる。割と古い家がたくさんあるが、学校も近いし、ゆめタウン等も近いので、子どもさんも増えてくるのではないかと楽しみにしている。それと、現代美術館にこの前行ったが、4~5人の人しかいなかった。設備がすごく良いので、もっと身近なものも展示してもらえたら良いなと思っている。

丸山委員

僕はPTAという立場なので、子育てという観点で話をさせてもらおうと思うが、若輩者なので、まちづくりという感じで住んでいなかったもので、気づいたことを簡単に言わせていただく。南区のPTA会長をしているが元宇品学区の子ども会の会長もしており、常任理事として門会長の下で町内会と一緒にさせていただいている。宇品学区に住んでいたが、元宇品にちょっと住んだ時にこの町は良い町だと思って、そこに永住を決めて家を購入した。まず、お年寄りと子どもがフレンドリーで「門さん」とか「中島のおばちゃん」とか、常に話をすることができている環境がある。また、子ども会の加入率も100パーセント、PTAも100パーセント、少年消防クラブも100パーセントになっている。68人52世帯しかない小さな学校だが、とにかくPTAと子ども会の隔たりがなく、同じ人が同じ役員をやっており、仲が良いので、そういうところに住みたいなのというのが、まちづくりの原点なのかなと思う。元宇品の町内というのはそういうモデル的に良いエキスがあると思う。今回の災害の時も、子どもからお年寄りまで五十何人集まり、すぐにボランティア活動で通学路の土砂を撤去した。また、避難された方の対応にも皆さんで集まって、とても良い町だなと自負している。色々な地区のPTAの問題とかを見て回っているが、地区によって物の考え方が違うので、こんな課題があるというのをしっかり集めてから、話をしていった方が、南区として一つの方向性が出るのではないのかなというのが僕の印象である。まちづくり的には、路面電車でせつかく駅と港がつながっているのも、交通網を何かもっとしっかりできたらにぎわうのかなと思う。また、東と西に向かっていく交通手段というのが公共機関的にはちょっと不便なところがあり、それが解消されれば、また発展とかにかからんでくるのかな、と思っている。

山口委員

私が住んでいるところは、比治山学区いわゆる段原山崎、日出、そして、東雲町ですが、学区の社協の中で4つのまちづくり委員会がある。高齢者・障害者・青少年健全育成、防犯・交通関係、町内会長が集まるコミュニティ、組織教育の委員であるが、ほとんど毎月のように集まって会合を持っている。特に、高齢者、障害者委員会は月に2回くらい集まっていたり、今現在の高齢者の皆さんの直接、間接的な見守りというようなことで色々頑張ってもらっている。発足には随分時間をかけたが、担い手の皆さんが町内会、老人

会、ボランティアの手を挙げていただき、緊密に「助け合い比治山」という名前でやっている。この研修会には六十何名の皆さんが参加をしている。年末には、ボランティアバンクの研修会も計画されている。中核になっているのは、65歳以上の高齢者が担い手である。また、若い人は当然、家計を担うために働いているので、日中に関しては、ほとんど高齢者が担い手という風な形にならざるを得ないというのが現状になっている。中核になっている者とどういう風な関わりを持っていくかと思う。また、南区は瀬戸内海があり、非常に魚介類がおいしいので、フードフェスタではないが、常設のいわゆるシーフードなんか、というような食べて飲んで人が集まるのができないものかなと常々思っている。これも一つ考えてみていただければなと思っている。

田丸副座長

色々な意見を聞かせていただいて、イメージがあっちでポツ、こっちでポツって湧いてきた。どんなきっかけ、どんな入り口でも、人と人がつながり合えるまちづくりにとって大事なことは、繋ぎ手自身が繋がり合うこと。ここに来ている皆さんは、繋ぎ手の代表だと思ってお聞きしていた。繋ぎ手自身が繋がり合うネットワークがとても大事だと思った。挨拶とか、若者から声を聞き取っているとか、見守り続ける中で子ども会が復活してくるとか、そういう担い手が繋がりあいながら活動を続けていけるように、そんな応援団が、これから、今、必要になっていると感じた。人を呼ぶ町、住んでよかったという町、そして人と人が出会って繋がれる町、そういうまちづくりができれば、ここに住んでみたいなどと思えると感じながら、お話を伺った。

松田座長

貴重な意見に感謝申し上げます。感想として、課題をおっしゃる方、夢をおっしゃる方、ぜひやってみようといった御自身の宣言をされる方もおられたので、回数は限られているが、この懇談会で新しい南区の方向性を出していければと思っている。本日の議事は以上だが、時間の関係で、今後の懇談会の取組とか運営に関して、何かどうしても言っておきたいことがあれば、御発言をいただきたい。もし、文書とかメール、あるいは電話でも良ければ、地域起こし推進課長に、運営に関してこういう希望があるとといった御意見を寄せてもらっても構わない。この場でどうしても言っておきたいということがあるか。

田丸副座長

先ほど、丸山委員さんの、地区ごとの課題がそれぞれに網羅されているかということが大事だという話を聞きながら、この配っていただいた基本構想、基本計画の、区の計画のところに書かれているそれぞれの施策とかプロジェクトとか、あるいは地区ごとの特性や方向性を踏まえた様々な施策について、できればいずれかの機会に、南区のこの部分の総括を聞けたら、ここからもう一歩どっちの方向に足を踏み出していったら良いか、具体的に考えられると思う。

松田座長

今の要望への対応をよろしく頼む。

地域起こし推進課長

はい。

松田座長

今日お二人の委員が欠席だが、欠席の委員からも何か御意見があれば、次回、冒頭でも紹介と合わせてお話をさせていただきたいと伝えてほしい。